



A bridge of dream

## 鹿屋工業高校美術教諭

# 堀之内 聖さん

幼稚園の頃から絵を描くことが好きだったようで、周りから褒められてうれしかったことを覚えています。小・中学校ではイラストや模写などをしながら、高校で美術部に入部。その時の顧問の先生に憧れて、教職に就こうと考えるようになりました。卒業後は鹿児島大学教育学部の美術専修に進学し、画材を一通り研究した結果アクリル絵の具を使った作品作りに取り組むように。アクリル絵の具は色鮮やかで彩度が高く、すぐに

乾くために塗り重ねが可能で、油絵の具と違い臭いがないことが特徴です。大学では人物や風景画を中心に描いていましたが、卒業してからは自分が求めるモチーフを模索するように。植物や昆虫、動物といった自然界のものを試し「鳥」にたどり着きました。実在する鳥を写実的に描くのではなく、組み合わせたり色彩を変えたりすることで、インスピレーションが広がりやすく、表現の幅が広いことが鳥を選んだ決め手となった

ています。私の制作する作品は、深みのある色彩にすることで非現実的な空間になるように様々な技法を使い分けています。また、メダイウムという材料を使用して表面に凹凸を作ったり、箔を使って金色を表現したりと「質感」の表現にもこだわっています。授業や部活では、生徒にデッサンで目の前のものを観察する力を養ってもらいながらも、自分で想像しながら描く面白さを知ってもらえるように教えています。さらに、言葉で自分の知識や技術を教えるだけではなく、自分の話や絵を描く姿を見せることによって絵画の楽しさを生徒たちに感じてもらえればと思っています。

作品は、鑑賞者と対話の機会を生み出します。そのような点から、制作者からの一方通行にならないように鑑賞者が圧倒されるような臨場感あふれる絵を描き、少しでもその人の人生が豊かになって「見てよかった」と思える絵を今後も描き続けていきたいです。

### information

鹿児島市出身、29歳。初任校の鹿屋工業高校で美術教科担当と美術部顧問を務める。また、週2回鹿屋農業高校でも美術を教えており、どれだけ忙しくても毎日筆を持つようにしている。趣味はカメラと観葉植物。週末には作品のモチーフを探しに、様々な場所に足を運んでいる。



【右】「第70回記念県美展」で洋画の部大賞に選ばれた「古に希む」。県美展が永遠に続いてほしいとの思いから不死鳥をモチーフとした。

【左】鳥と言っても、孔雀や猛禽類など様々な鳥をモデルにしつつそれらを組み合わせ、色彩も相まって非現実的な空間を創出する。